



しごと・就労支援を切り口にした地域づくり 応援プログラム

～生活困窮者等への中間的就労推進を核にした地域作りワーカー育成事業～
社会福祉振興助成事業(コロナ禍における生活困窮者及びひきこもり支援に
係る民間団体活動助成事業・令和3年度補正予算事業)

実施報告書

公益社団法人ユニバーサル志縁センター

令和5年3月

目次

I. 事業の背景	2
II. 事業の概要	3
III. 地域づくりの進め方	5
IV. 多機関参加型ワークショップの実施	7
V. 「しごと情報」を軸にした就労支援	12
VI. 就労支援のための地域プラットフォームのデザイン	30
VII. 重層的支援体制整備と就労支援のつながり	31
VIII. 成果と課題	32

1. 事業の背景

就労支援の対象者はコロナ禍を経てこれまで支援機関を利用したことがなかった人々にも広がり、また、産業構造の変化と人手不足を背景に、学びなおしのニーズも広がっています。こうした対象者の広がりとともに、就労支援を担う機関、事業者も多様になってきているなか、就労準備から就労、就労継続、転職等のステップにおいて、多様な支援主体の連携や社会資源の活用が課題になっています。

また、就労相談の現場においては、相談者をハローワークの求人につなぐものの mismatch による早期離職が課題になっているほか、相談者の状況に合わせて就労先につなげるための具体的な手立てがなく、支援が難しいといった課題があります。

就労支援の施策においては、生活困窮者自立支援制度のなかで、「就労準備支援」「中間的就労」「無料職業紹介の活用」等が事業化され、就労支援が強化されてきました。この流れを受けて、ユニバーサル志縁センターでは平成 27 年度より厚労省社会福祉推進事業を受け、就労支援事業に求められる構成要素を明確にし、ロジックモデルを作成するなどの取り組みを通して、自治体や自立相談支援機関による就労支援の機能強化をサポートしてきました。令和 3 年度には厚労省「生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成」を受け、6 つの自治体において「多様な地域連携による就労支援：現状把握と活動評価の PDCA」を実施しました。この数年間の取り組みの中で、就労支援の課題として、次の 5 つの点が見えてきました。

- (1)多様な働き方、体験の機会が求められている
- (2)就労支援ニーズをもつ潜在的な生活困窮層が掘り起こせていない
- (3)就労支援を支える多様な連携が可視化されず、社会資源の活用が進んでいない
- (4)人材不足に悩む企業等の事情はコロナ禍でより厳しくなり、就労支援との連携に関心を高めている
- (5)地域の社会資源の開拓や活用を推進、調整する機能や人材等の中間支援の必要性

そこで令和 4 年度は、これらの課題に挑戦すべく、WAM 助成を得て「生活困窮者等への中間的就労推進を核にした地域作りワーカー育成事業」を実施しました。

II. 事業の概要

就労支援においては施策対象ごとの縦割り傾向があったり、求人情報の提供や手続き中心のアプローチでマッチングがうまくいかないといった悩みが聞かれます。そこで、当事業で、地域の多様な関係者が連携して就労支援の機能強化を図る仕組み(プラットフォーム)づくりを応援するプログラムを実施しました。

参加地域のコーディネーターチームと多機関参加型ワークショップを企画し、地域の関係者が課題やビジョンを共有することからスタート。見えてきた課題のなかでもとりわけ企業・農家等の「しごと情報」に焦点を当てた体験プログラムシートづくりを軸に、一時相談でのニーズ把握、就労支援のケースワークの改善のためのプログラムを実施しました。全8回のオンラインセミナーの他、シンポジウムも実施しました。

(1) 事業名

「生活困窮者等への中間的就労推進を核にした地域作りワーカー育成事業」

事業実施においては、「しごと・就労支援を切り口にした地域づくり応援プログラム」と銘打って実施しました。

(2) 目的

生活困窮者等に対する就労支援の機能強化にむけて、中間的就労(働く場を利用した就労準備支援、就労訓練等)の推進を核に、一次相談(生活相談)ー就労・キャリア支援ー一定着支援という一連の相談支援の機能を備えた地域プラットフォームづくりの推進およびその担い手となる地域づくりワーカーならびに中間支援ワーカーの養成を目的としました。

(3) 事業の構成

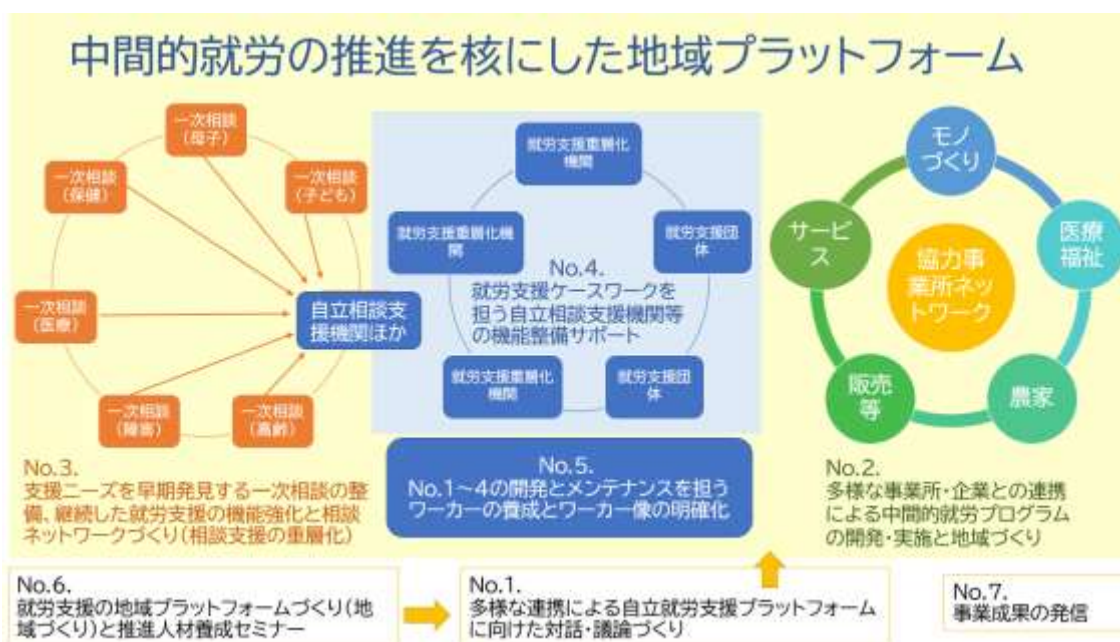
当事業は図1の中で示す7つの柱で構成しました。事業の柱 No.1～No.5は参加希望地域を募り、それらの地域での「しごと・就労支援を切り口にした地域づくり」に伴走する形で行いました。No.1は、一人ひとりの相談者に合わせた就労支援に必要な仕組みづくりに関わる地域の多様な関係者による参加型ワークショップです。そこから見えてきた課題を踏まえ、企業等協力事業所での中間的就労(就労体験)プログラムづくりとその地域共有資源化(事業の柱 No.2)、あるいは、一次相談機関の相談の中で就労支援のニーズを早期発見するためのスキル研修(事業の柱 No.3)、または、就労支援ケースワークの相談の中で就労体験プログラムを

活用するための研修(事業の柱 No.4)を多機関参加型ワークショップ形式で行いました。

また、当事業の注目ポイントの一つは、自治体単位の地域づくりをサポートする県域の中間支援を担うワーカーの養成(事業の柱 No.5)でした。県内のモデル地域で No.1~4を進め、各地域での仕組みづくりへの伴走を通して、各地域の地域づくりワーカーを養成しながら中間支援ワーカー自身が仕組みづくりのノウハウを学ぶとともに、その役割を明確にする試みでした。県域で中間支援ワーカーを養成することで、当事業終了後にも各地域での取り組みを進めやすくなることが期待されます。

こうした各地域での仕事・就労を切り口にした地域づくりに必要な情報や課題整理のためのオンラインセミナー(地域づくり担当者セミナー・全8回・事業の柱 No.6)を全国を対象に実施したほか、ホームページ「就労支援×地域づくりに役立つ情報サイト」(<https://www.u-shien.jp/jobssupport/>)の制作、そして、取り組みから得られた学びを発信するシンポジウム(事業の柱 No.7)も実施しました。

図1 しごと・就労支援を切り口にした地域づくりの見取り図(事業計画時)



(4)事業の実施体制

事業の全体をとおして、公益社団法人ユニバーサル志縁センターと A'ワーク創造館(有限責任事業組合大阪職業教育協働機構)が協働してプログラムを企画、実施しました。県域の中間支援ワーカー養成については、社会福祉法人大分県社会福祉協議会ならびに NPO 法

人おおいた子ども支援ネットと業務委託契約を結び、県社協内に当事業を担当する中間支援ワーカーを配置する形で実施しました。

(5) 事業に参加した地域

●しごと・就労支援を切り口にした地域づくり応援プログラム：多機関参加型ワークショップ

大分県	兵庫県	長野県	神奈川県
<ul style="list-style-type: none"> ・大分県社会福祉協議会 ・杵築市 ・玖珠町 ・竹田市 	<ul style="list-style-type: none"> ・尼崎市 ・伊丹市 ・川西市 	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那 ・東御市 	<ul style="list-style-type: none"> ・座間市

●地域づくり担当者オンラインセミナー

山形県、新潟県、長野県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、奈良県、大阪府、兵庫県、香川県、愛媛県、広島県、鳥取県、佐賀県、大分県、鹿児島県から参加がありました。

III. 地域づくりの進め方

「しごと・就労支援を切り口にした地域づくり応援プログラム」はおおむね図2に示す地域づくりの進め方の流れで実施しました。

(1) 地域づくり運営チームの立ち上げ

多様な関係者とともに地域に必要な仕組みを検討し、就労支援のための地域づくりを企画するチームを立ち上げます。これは重層的支援体制整備を担当するチームあるいは全世代型の就労支援を担う生活困窮者自立支援機関などが中心となることが考えられます。

当事業に参加した地域の窓口となった

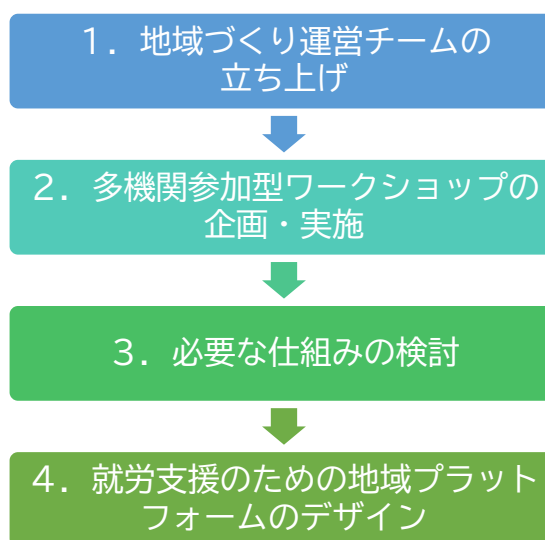


図2 地域づくりの進め方

機関・部署の多くは、重層的支援体制整備を担うチームでした。また、社会福祉協議会（生活困窮者自立支援機関）が独自に参加の窓口となり、当事業での多機関参加型ワークショップの機会を活用して、多様な連携を生み出そうとする地域もありました。

(2)多機関参加型ワークショップの企画・実施

就労支援の仕組みづくりに関わりそうな地域の関係機関に集ってもらい、対話を通して問題意識と目標イメージを共有することで、連携の基礎となるつながりを形成します。また、就労支援のニーズや必要な取り組み、そして目標などについて意見を出し合い、その情報が仕組みづくりの検討の基礎となります。

(3)必要な仕組みの検討

多機関参加型ワークショップで出た意見や統計データなどをもとに、就労支援の機能強化に必要な取り組みとその仕組み化を企画チームが中心になって検討し、導入していきます。例えば、多様なニーズに応えるため、地域の事業所・企業と協働して多様な就労プログラムを開発し、就労支援のなかで活用する仕組みが欲しい場合、「業務の切り出し」や「体験プログラムシート等ツールの活用」などを具体化することが考えられます。他にも、福祉と就労支援の連携の仕組みや、通勤ための移動支援の仕組み、人材を必要とする企業や農家との協働事業など、各地域の事情に応じて様々な仕組みが考えられます。

(4)就労支援のための地域プラットフォームのデザイン

このように様々な仕組みで構成する就労支援が全体としてうまく機能するよう、各仕組みを運営する機関や人を明確にするなどして地域プラットフォームをデザインします。

当事業の実施においては、各地域のニーズに踏まえながら多機関参加型ワークショップ(3回実施を目標)とコンサルティングを実施しましたが(図3)、令和4年度の「しごと・就労支援を切り口にした地域づくり応援プログラム」実施期間中には、ほとんどの地域で「3. 必要な仕組みの検討」までの実施となり、「4. 就労支援のための地域プラットフォームのデザイン」は今後の課題となりました。

図3 当事業に参加した各地域の取り組み

	伊丹市	川西市	尼崎市	座間市	上伊那	東御市	玖珠町	杵築市	竹田市
1. 地域づくり運営チームの立ち上げ	重層	重層	重層	重層	社協	社協	に向け重層	社協	重層
2. 多機関参加型ワークショップの企画・実施		7月	7月	10月	10月	8月	5月	5月	6月
3. 必要な仕組みの検討									
4. 就労支援のための地域プラットフォームのデザイン									
チーム	重層	重層	重層	重層	社協	社協	に向け重層	社協	重層
関係者 MTG/WS		7月	7月	10月	10月	8月	5月	5月	6月
ニーズ・必要な活動WS	R3	11月	10月	2月		R3	7月	7月	
重点課題・目標WS	R3	1月	11月 3月	3月		R3	9月	9月	
体験プログラムシートづくりWS	8月	1月			1月 2月	R3	1月 ～	5月 ～	1月 ～
シートの活用WS	12月 2月	3月			3月		3月		

IV. 多機関参加型ワークショップの実施

「しごと・就労支援を切り口にした地域づくり応援プログラム」では、多機関参加型ワークショップで地域の就労支援ニーズ、必要な取り組み、目標イメージを共有するところから始めました。地域づくり運営チーム(当事業に応募した部署)が、各地域で就労支援にたずさわっている機関、これから関わってもらいたい機関、関係者に参加を呼びかけ、それぞれの地域に必要な仕組みについて一緒に考えました。初めの2回は図4に示すテーマでグループワークを行い、そこで出された意見は、地域づくりの次のステップを検討する際の重要な情報となるため、「しごと・就労支援を切り口にした地域づくりロジックモデル目標ガイド」に整理しました。

この多機関参加型ワークショップを契機に支援機関同士の情報共有ができたこと、支援員同士の「顔がわかる」以上の関係づくりができ、連携の素地形成につながったことが参加者アンケートから伺えます。また、就労支援が充実することにより、相談者のみならず、支援機関、そして地域社会にどのような変化を期待できるかについての意見交換から、就労支援を担う自分たちのしごとの意義を再確認することができたといった声も聞かれました。

図4 多機関参加型ワークショップでのグループワークのテーマ

ワークショップ1回目：2時間～2時間半		
グループワーク1	ニーズについて	就労支援のニーズがある人はどんな人ですか？
グループワーク2	取り組みについて	どのような取り組みがあるとよいですか？
ワークショップ2回目：2時間～2時間半		
グループワーク1	ニーズ・取り組みの重点ポイントについて	前回出しあったニーズ、必要な取り組みのうち、とりわけ重要な項目はどれですか？
グループワーク2	目標(アウトカム)イメージについて	これらの取り組みを実施し、就労支援がうまくいくと、どのような変化が期待されますか？

参加者の声

●ワークショップを通した他の機関とのつながり

 <p>就労支援には多岐にわたる支援者が市内にいることを知りました。</p>	 <p>ハローワークの方や障害者支援事業所の方と話しながら、違う視点を知ることができました。</p>
 <p>民間や地域でも困っている人を支援したいと考えている方がたくさんおられることがわかりました。</p>	 <p>普段、福祉関係者だけで話していると、なかなか意識できない、企業の視点を知ることができました。</p>
 <p>支援者側と企業の溝が課題になっていますが、距離をもっと縮められるなど思いました。</p>	

●ワークショップでの気づき

 <p>現状の支援方法に満足していない支援員が多いことをあらためて感じました。</p>	 <p>こんな取り組みが「あったらいいな」という意見がたくさん聞けました。</p>
 <p>やはり相談支援体制の一元化は重要だと思いました。</p>	 <p>企業側の考え方についての話もあり、今後の企業側との関わり、支援者が見学・体験に行くことの大切さなど、大変参考になりました。</p>
 <p>企業と福祉のネットワークづくりを進めるなかで、障がい者の就労・雇用のみならず、幅広い視点、考え方が必要だと感じました。</p>	

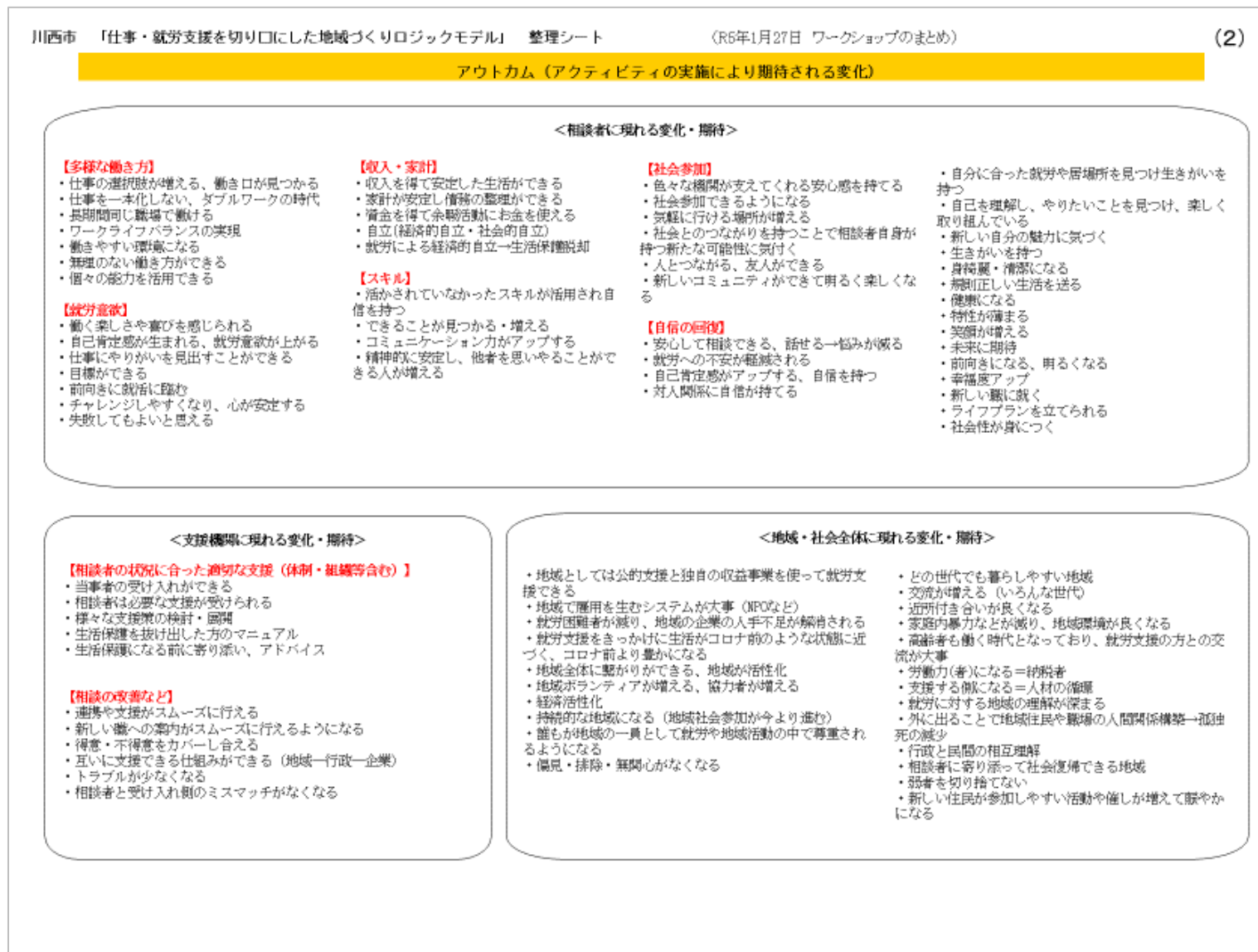
●これからやってみたいこと

 <p>それぞれの立場で焦点の違いがあるなか、「共通」を見つけて出す必要があると感じました。</p>	 <p>就労支援に携わっている人達が手探りでされているとのことだったので、継続してワークショップや勉強会が必要だと感じました。</p>
 <p>居場所事業を通じて就労支援につながる場づくりや、就労先開拓も積極的にしていきたいです。</p>	 <p>精神的にしんどさを抱えている方や、働きたいのに条件が合わない方など、工夫や支えがあれば活躍できる方をサポートする仕組みみたいなものができるとよいのでは？</p>
 <p>その人の状況を理解し、個人のキャリア成長につながるきめ細かい支援をしたいと思います。</p>	

図5 しごと・就労支援を切り口にした地域づくりロジックモデル 目標ガイドの例



図5 しごと・就労支援を切り口にした地域づくりロジックモデル 目標ガイドの例



V. 「しごと情報」を軸にした就労支援

(1) ミスマッチによる早期離職の課題

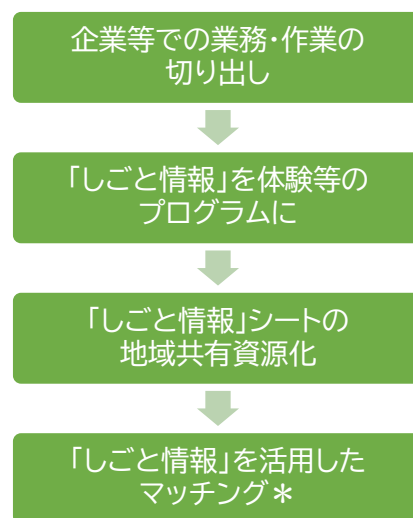
多機関参加型ワークショップでの「就労支援のニーズ」についての意見交換で、どの地域からも出された課題は、相談者と就労先のミスマッチによる早期離職でした。こうしたミスマッチがおこる背景には、就労先企業等で従事する仕事の内容や特性、職場環境が相談者に合うのかどうかわからないまま、業種や求人票の情報のみでつなげてしまったり、受入れ協力企業が少ないため、相談者に適合するのかが十分に吟味をしないままつなげてしまったりといったことがありました。

ミスマッチを防ぐにはまず、企業や農家等、働く現場での業務・作業を洗い出したうえで切り出し、その内容や特性、職場環境といった「しごと情報」を明確にし、就労相談のなかで相談者に紹介できる資料の形にしておくことが望まれます。中間的就労も視野に入れ、その「しごと情報」を体験等のプログラムとしてシートに記載し、できるだけ多くの協力企業の「しごと情報」を地域の就労支援機関（無料職業紹介など）に集積し、様々な機関の相談員がアクセスできるよう、地域共有資源化することが有効です。このようにすることで、就労相談のなかで相談者が次のステップを選べる状況を生み出すことができます。

また、マッチングの段階では、相談者の興味・関心・ストレンクスといったアセスメントのみならず、企業や農家等の側の人材ニーズをしっかりと踏まえて行うことが肝心です。この「しごと情報」を記した体験プログラムシートは、「しごと・就労支援を切り口にした地域づくり」の軸になるものと考えられます。

相談者の興味・関心・ストレンクス、体験を通して確認したいこと、成長したいことなどを就労相談で聞き取り、体験等を受入れる企業側の担当者にもうまく伝えるにはどのようにすればよいのか、についても課題になっていることがワークショップの中で見えてきました。そこで、次ページのような「しごと体験等参加者の自己紹介書」の活用を推奨しました。体験プログラムシートがない場合でも、この「自己紹介書を活用することで、協力事業所との共通理解を図りやすく、体験が有意義になった」（東御市）との振り返りコメントが寄せられました。

図6 「しごと情報」を軸にした就労支援の進め方



- *企業の人材ニーズと相談者の興味・関心・ストレンクスをふまえて
- *アセスメントとキャリア相談のスキル

しごと体験等参加者の自己紹介書のフォーマット(おおいた子ども支援ネット)

しごと体験等参加者の自己紹介書

就労体験の目標		
特性	セールス ポイント	<input type="checkbox"/> 作業面
		<input type="checkbox"/> 対人面
		<input type="checkbox"/> 考え方・行動の特徴
	苦手なこと	<input type="checkbox"/> 作業面
		<input type="checkbox"/> 対人面
		<input type="checkbox"/> 考え方・行動の特徴
体調面		
理解や配慮をしてほしいこと		

(参加希望者)

(支援者)

(2) 多様な働き方のメニューを増やす支援

多機関参加型ワークショップで「必要な取り組み」について出された意見のなかで、どの地域でも多かったのが「多様な働き方のメニューを増やす支援」に関する意見でした。一人ひとりの「相談者の状況に合った適切な支援」が必要だという意見も、当然、すべての地域で出されていましたが、相談者の「働きたい」「なんらかの働く場に出てみたい」という気持ちを後押しする就労支援を実践するには、まず、様々な相談者に紹介できる多様なメニューが地域にあるという状態を創り出す必要があります。見学、体験、短期／短時間アルバイト、そして、相談者の状況に合わせて柔軟にアレンジした雇用など、多様な機会を用意することで、相談者、企業側がそれぞれに吟味をすることができ、ミスマッチを減らすことができると期待されます(図7)。

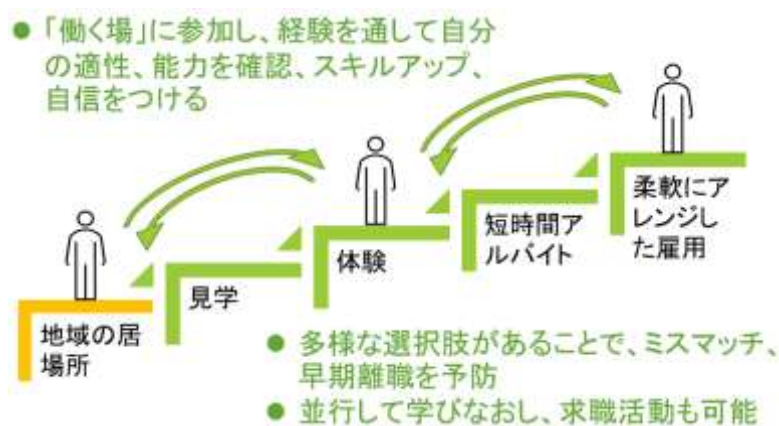


図7 自分に合った「働く場」に参加することでミスマッチを防ぐ就労支援

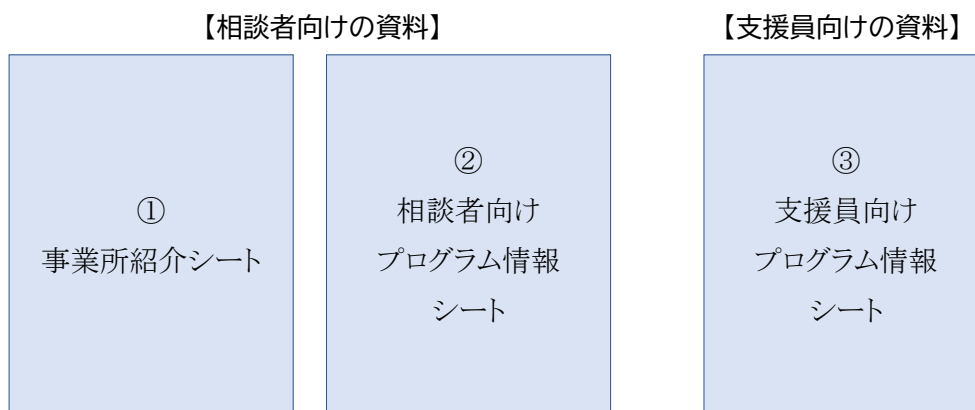
(3) しごと体験プログラムシートづくり

このような段階を踏んだ就労支援の軸になるのが、「しごと情報」です。そこで、当事業では、就労支援の地域プラットフォーム(仕組みづくり)の軸になると考えられる、企業・農家等の「しごと情報」に焦点を当てた体験プログラムシートづくりを推奨し、これを手掛けることができる人材養成を行いました。

- (1)協力企業・農家に訪問同行し、この取り組みの趣旨を説明するサポート
- (2)対話をしながら業務・作業の洗い出しを行い、「業務・作業洗い出しシート」に落とし込む作業のサポート
- (3)聞き取りと業務洗い出しシートをもとに、「①事業所紹介シート」「②相談者向け プログラム情報シート」ならびに「③相談員向け プログラム情報シート」を作成する作業のサポート(一部、ワークショップで実施)

(4)作成した①②③を就労相談の場面で活用することを想定して、ワークショップで意見交換をし、ブラッシュアップをするとともに、具体的な活用イメージとその有用性を共有

●3種類のシートについて



「③支援員向け プログラム情報シート」は各協力事業所の業務内容や体験できる作業の特徴について、あらかじめ相談員が知っておき、相談者にうまくマッチングするための資料です。企業等でのヒアリング時に作業の特性や体験で確認できること(理解力・正確性・体力・手先器用度など)をよく聞き取り、それをもとに作成します。企業等で聞き取りをする際のガイドとしても使えます。

①～③が一通りできたら、企業の担当者ならびに何人かの就労支援員に見てもらい、ブラッシュアップします。

複数の企業等にて①～③を作成したら、地域内の就労支援機関や無料職業紹介窓口に備え付け、就労相談(キャリア相談)で相談者に合わせて活用します。こうした「働く場でのプログラムメニュー」があることで、支援しやすくなります。

体験や短時間雇用を受入れることでメリットを感じられると、企業側が切り出す業務のバリエーションを増やしてくれることがあります。ですから、適宜、シートをアップデートする仕組みにしておきましょう。

次ページに、内職ならびに農作業の体験プログラムシートのサンプルを紹介します。

業務・作業洗い出しシート【内職】(伊丹市)

就労体験や短期バイト等の業務・作業洗い出しシート

会社名・部署	〇〇社 通所・内職作業	作成者氏名	連絡先
--------	----------------	-------	-----

短期バイトの対象 体験の対象 就労体験は半日 2.0h～

No.	作業名	内容・手順	難易度	頻度	発生時間帯	時間
1	モーターベース除去版	医療器具の基盤に、金具の除去版を張り付ける作業。 ずれないように、決まった位置に添付する。 午前中に20個程度を目標に作業を行う。	易・ 普 ・難	毎日	9:30～10:20	50分
2		休憩	易・普・難	↓	10:20～10:40	20分
3	モーターベース除去版 絶縁板スペーサー貼り	モーターベース作業終了後、IH機器の抑え板の定位置に、ウレタンシールを張り付ける作業が絶縁板スペーサー貼り。穴が開いている個所に、穴を埋まる位置に添付していく。	易・ 普 ・難		10:40～11:30	50分
4		昼休憩	易・普・難		11:30～13:30	2時間
5	絶縁板スペーサー貼り	午後の作業に多い。20枚程度を目標に作業。穴の大きさとシールの幅の差が少ないため、ずれるとやり直しとなる。	易・ 普 ・難		13:30～14:20	50分
6		休憩	易・普・難		14:20～14:40	20分
7	金具・ネジ袋入れ	決まった袋に金具・ネジを入れ、シーラー止めを行う作業。分業で行うため、得意な作業を選択することができる。	易・ 普 ・難		14:40～15:30	50分
8		自身のペースで黙々と行うひとり作業。継続して選所し、日常生活・社会生活自立を目標とする。ノルマはありません。午前のみ午後のみの参加が可能。				

※就労体験は「職業経験が少ない」等で求職準備段階の相談者が実際の作業等に従事し、めざす仕事や職業生活（キャリア）を見通すためのサポートの1つです。

※「作業名」「作業内容」等は、1人分の業務を洗い出すためのものではありません。出していた業務・作業の中から、参加者に合わせて、従事する作業等を組み合わせます。

※「難易度」は、易=判断要素が少なく、工程も比較的少ない作業 普=多少の判断要素があるが、一定の手順で遂行可能な作業 難=PCや機器等の操作や臨機応変さが求められる作業

※ わかる範囲で結構です。詳しくは訪問時に伺います。


※作業等の頻度が1年間で変動する（繁忙がある）場合は、(別紙)「作業等の年間の動き」に簡単に記入してください。

事業所紹介シート

〇〇(就労支援協力事業所)

どんな事業所なの？

周辺企業の工場等から作業を請け負い、当事業所の内職場にて行っています。
直ちに就労することが困難な方などの就労訓練を行っています。



事業所の外観
画像




画像

どんな人が働いてるの？

こつこつ黙々と作業するのが得意な人が作業しています。

仕事の内容は？

- ・医療器具の基盤に金具の除去版を張り付ける。
- ・絶縁版スペーサー張り。
- ・決まった袋に金具、ネジを入れ、シーラー止めを行う作業。



画像



画像

事業所で働く人からひと

現在10代から70代までの方々が、常時10名ほど参加されています。
生活リズムやコミュニケーションスキルをアップしたい方、社会参加を目的とされる方、身体や心のリハビリのために参加される方など、様々な方がここに集います。
簡単な作業で、個々のペースで行いますのでご安心ください。
ゆったりと穏やかな「居場所」です。見学に来てみてくださいね。

事業所開拓員からひと言！

自身のペースで黙々と行うひとり作業です。継続して通所し、日常生活・社会生活自立を目標とするため、ノルマはありません。午前中や午後のみ参加も可能です。

しごと体験等プログラム・シート

事業所名 ○○社 シート作成日: 2022年12月2日

就労支援協力事業所での通所・内職
医療器具の基盤に、金具の除去版を貼り付ける作業



体験の概要

◆体験の作業内容

周辺企業の工場から請け負った作業の内職作業。
製品の組み立てや袋詰めなど。



◆体験の半日のスケジュール例

時間	スケジュール
9:30～ 10:20	医療器具の基盤に、金具の除去版を張り付ける作業。
10:40～ 11:30	20分の休憩後、午前同様の作業に加え、絶縁版スパーサー貼りをを行う。



◆体験のポイント

- ・わからないことはすぐに聞けます。
- ・自身のペースで黙々と作業できます。

◆体験で獲得できるスキル

- ・集中力
- ・正確性
- ・手先器用度
- ・丁寧さ

事業所開拓員からひとこと

自分のペースで作業でき、慣れれば午前、午後通して作業することもできます。
静かな場所での作業のため、こつこつ黙々と作業するのが得意な方は自信がつかますよ。

体験作業の詳しい内容

①モーターベース除去版(1)

医療器具の基盤に金具の除去版を張り付ける作業

<特徴>

- 体力 ★
- 正確性 ★★★
- 作業速度 ★★
- 手腕器用度 ★★
- 共同作業 ★

作業画像

②モーターベース除去版(2)

ずれないように、決まった位置に貼付する。

<特徴>

- 体力 ★
- 正確性 ★★★
- 作業速度 ★★
- 手腕器用度 ★★
- 共同作業 ★

作業画像

③絶縁版スペーサー貼り(1)

IH機器の抑え板の定位置に、ウレタンシールを貼り付ける作業が絶縁版スペーサー貼り。

<特徴>

- 体力 ★
- 正確性 ★★★
- 作業速度 ★★
- 手腕器用度 ★★
- 共同作業 ★

作業画像

④絶縁版スペーサー貼り(2)

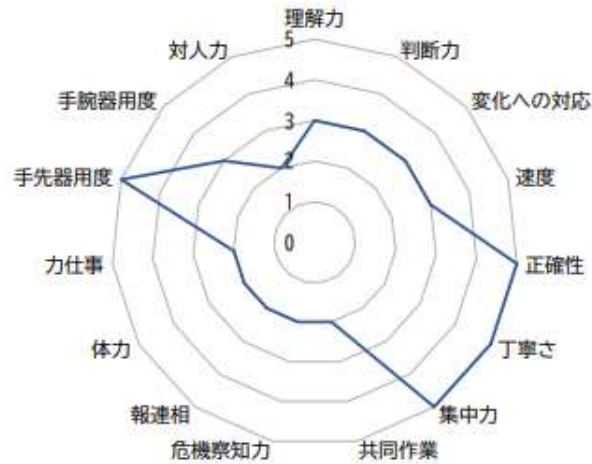
穴が開いている箇所に、穴が埋まるようウレタンシールを貼り付ける。

<特徴>

- 体力 ★
- 正確性 ★★★
- 作業速度 ★★
- 手腕器用度 ★★
- 共同作業 ★

作業画像

【体験実習で確認できること・作業の特徴】



◆受入れ体制や職場環境 ※参加者と受入れ企業・そこでの仕事の相性を確認できる項目

<受入体制>

- ① 常時10人ほどが同じ部屋で作業をしますが、作業は1人ずつ単独で行います。
- ② 指導員が1人いますので、わからないことがあればいつでも聞くことができます。
- ③ 作業を行う内職場は静かな環境です。
- ④ まずは内職場に来ることを目標にしている方も受け入れています。

<作業・業務の特性>

- ① 椅子に座っての部品の組み立て、貼り付けの作業が中心です。
- ② より簡単な、袋詰め作業もあります。
- ③ 組み立て作業などを通して、集中力、正確性、手先器用度、丁寧さを確認することができます。
- ④ 指導員から作業の説明を受けたり、わからないことを聞くといったコミュニケーションは必要ですが、他の人と会話をする必要はありません。

◆体験実習を通して確認できる項目

- ① 健康要因等で離職期間が長い等の相談者が、「働くための体力」や「集中力」を確かめることに適しています。
- ② 手先の器用さを生かして仕事をしたい方のお試しの機会として活用できます

業務・作業洗い出しシート【農作業】(玖珠町)

就労体験や短期バイト等の業務・作業洗い出しシート							
会社名・作成部署	〇〇農園 ほうれん草 収穫・調整作業			作成者氏名		作成者連絡先	
No.	作業名	内容・手順	難易度	頻度	発生時間帯	時間	担当
1	いらぬ葉を取る	ほうれん草を1株ずつ取って逆さにし、根に近い葉や小さい葉、傷んでいる葉を取り除く <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易・ 普 ・難	収穫シーズンはほぼ毎日	10:00~15:30		
2	根を切る	根の長さが均等(約5mm程度)になるように整える <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易・ 普 ・難	〃	〃		
3	ほうれん草をまとめる	ほうれん草を4~5株ずつまとめて輪ゴムでまとめる。 <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易・ 普 ・難	〃	〃		
4	重さを量って整える	まとめたほうれん草をはかりに乗せて、200gになるように整える <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易・ 普 ・難	〃	〃		
5	泥を取る	バケツに入った水に、ほうれん草の根を入れて、泥を取る <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易 ・普・難	〃	〃		
6	専用の袋に入れる	指定された三角袋にほうれん草を入れる。 <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易 ・普・難	〃	〃		
7	袋をテープで止める	袋の上部を折り返して、テープで止める <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易 ・普・難	〃	〃		

業務・作業洗い出しシート【農作業】(玖珠町)

就労体験や短期バイト等の業務・作業洗い出しシート							
会社名・作成部署	〇〇農園 ほうれん草 収穫・調整作業			作成者氏名		作成者連絡先	
No.	作業名	内容・手順	難易度	頻度	発生時間帯	時間	担当
8	値段のシールを貼る	値段シールを中央やや下の部分に貼る <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難	収穫シーズンはほぼ毎日	10:00~15:30		
9	コンテナに入れる	テープで止めているか、値段シールを貼っているかを確認して、コンテナに入れる <input checked="" type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input checked="" type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難	〃	〃		
10		<input type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難				
11		<input type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難				
12		<input type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難				
13		<input type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難				
14		<input type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難				
15		<input type="checkbox"/> 短期バイトの対象 <input type="checkbox"/> 体験の対象	易・普・難				

※ 就労体験は「職業経験が少ない」等で求職準備段階の相談者が実際の作業等に従事し、めざす仕事や職業生活（キャリア）を見通すためのサポートの1つです。
 ※ 「作業名」「作業内容」等は、1人分の業務を洗い出すためのものではありません。出していただいた業務・作業の中から、参加者に合わせて、従事する作業等を組み合わせます。
 ※ 「難易度」は、易=判断要素が少なく、工程も比較的少ない作業 普=多少の判断要素があるが、一定の手順で遂行可能な作業 難=PCや機器等の操作や臨機応変さが求められる作業
 ※ 分かる範囲で結構です。詳しくは訪問時に伺います。

事業所紹介シート



〇〇農園

どんな事業所なの？

お米2.2haと50aの畑で年間にわたり少量多品目の野菜を栽培しています。基本は堆肥と有機肥料のみでの栽培です。
理念として新鮮で安全、ミネラルたっぷりの生きたお米や野菜を毎日食べれば人は健康で病気知らずとなると確信し常に研究しています。

◆見学・体験場所
住所：〇〇 アクセス：〇〇



どんな人が働いてるの？

家族3人で運営しています。繁忙期には近所の人とも協力しながら作業をしています。

事業所で働く人からひと言！

化学肥料を使わない有機農法を展開しています。
品目によっては、繁忙期がありますが、年間を通して作業があるかと思います。
多くの地域の人の参加をお待ちしています。







仕事の内容は？

- ・野菜の収穫はじめての作業
- ・野菜の出荷、調整作業
- ・畑の除草作業 等

見学・体験から始めることも、雇用でスタートすることもできます

作成者からひと言！

農業というと、田んぼや畑仕事のイメージがあるかと思いますが、収穫後の出荷に向けた調整作業も大事な仕事です。
繰り返しの作業が苦にならない方やこつこつと作業するのが得意な方は自信がつかます。

しごと体験等プログラム紹介シート

〇〇農園

シート作成日：〇〇年〇月〇日

農家での農作業体験

鮮やかなグリーンに触れてみませんか？ ほうれん草の収穫・調整・出荷



体験の概要

◆体験の作業内容

- ・ほうれん草の収穫
- ・出荷に向けて調整作業
- ・袋詰め作業

◆体験の1日のスケジュール例

9:45	集合、準備
10:00	作業開始
12:00	休憩
13:00	作業再開
15:30	終了

※体験日時はご相談の上、決めることができます。

◆体験のポイント

- ①ほうれん草の収穫から出荷を学べます。
- ②農業を学ぶ事ができます。
- ③野菜に触れ集中して作業できます。
- ④多くの時間は座って作業できます。

◆体験で獲得できるスキル

- 集中力
- 丁寧さ
- 手先器用度
- 正確性



事業所開拓員からひとこと

体験の日時・時間はご相談に応じて調整いたします。

〇〇農園のほうれん草は無農薬で育てています。葉っぱが厚く、緑も鮮やか。

作業の手順はいろいろとありますが、1つ1つ確認しながら作業を行きましょう。

出荷に向けて調整作業はお店に並ぶ前の大事な作業となります。こつこつと作業することが好きな人は向いているかも。

緑黄色野菜の代表格「ほうれん草」の旬は、まさに冬！

原農園のほうれん草に触れて、農業経験者も未経験者も新たな1歩を踏み出してみませんか？

まずは1つの作業だけを行い、慣れてきたら複数の作業に移る事も可能です。

体験作業の詳しい内容

① いらない葉を取る

ほうれん草を1株ずつ取って逆さにし、根に近い葉や小さい葉、傷んでいる葉を取り除きます。

<特徴>	
○体力	★★
○集中力	★★★
○丁寧さ	★★★
○手先器用度	★★★
○正確性	★★★



② 根っこをきる

ハサミを使って、ほうれん草の根を切って収穫します。根元の赤い部分は栄養豊富なので少し残して切ります。

<特徴>	
○体力	★★
○集中力	★★★
○丁寧さ	★★★
○手先器用度	★★★
○正確性	★★★



③ 重さを量って整える

ほうれん草4～5株をはかりに乗せて、200グラムくらいになるように整えます。

<特徴>	
○体力	★
○集中力	★★★
○丁寧さ	★★★
○手先器用度	★
○正確性	★★★



④ ほうれん草をまとめる

200グラムくらいにはかった4～5株のほうれん草を輪ゴムでくくって、1束にまとめます。まとめる時には、葉が折れないように注意します。

<特徴>	
○体力	★★
○集中力	★★★
○丁寧さ	★★
○手先器用度	★★
○正確性	★★



⑤ 泥を取る

輪ゴムでくくって1束にしたほうれん草の根の部分の泥をとります。バケツに入った水で、ほうれん草の根をすすいで、泥を取ります。

<特徴>	
○体力	★
○集中力	★★
○丁寧さ	★★
○手先器用度	★
○寒さ	★★★



⑥ 袋詰め

泥を取ったほうれん草を1束ずつ、専用の三角袋に入れていきます。このとき袋が破れないように注意しましょう。

専用の袋⇒



<特徴>	
○体力	★
○集中力	★★
○丁寧さ	★★★
○手先器用度	★★★
○正確性	★★★



⑦ 袋をテープで止める

袋の上部（葉っぱが入っている方）を折り返して、テープで止めます。

<特徴>	
○体力	★
○集中力	★★
○丁寧さ	★★
○手先器用度	★★
○正確性	★★



⑧ 値段シールを貼る

値段シールを中央やや下の部分に貼ります。向きは葉の部分の上になるように貼ります。

ココの位置です。

<特徴>	
○体力	★
○集中力	★★★
○丁寧さ	★★★
○手先器用度	★
○正確性	★★★



⑨ コンテナに入れる

テープが止まっているか、値段シールが貼られているかを確認してからコンテナに入れます。

<特徴>	
○体力	★
○集中力	★★
○丁寧さ	★★
○手先器用度	★★
○正確性	★★



※体験の際の服装や必要な持ち物

【服装】

畑や作業場での活動なので汚れてもいい服装

【持ち物】

昼食、飲み物 ※作業に必要な道具は、〇〇農園で準備されています。

体験する事業所の所在地

住所

交通アクセス

電話番号

担当者

地図

支援者向け プログラム情報シート【農作業】(玖珠町)

〇〇町・就労支援からの地域づくり事業

協力事業所のしごと体験等プログラム情報

【支援者向け資料】

事業所名称（所在地）

◆事業所の基本情報

<体験受入れ依頼の際の連絡先>

・ 氏 TEL: - -

<事業所の人材育成の考え方（資格取得支援、人材育成制度など）>

・ はじめての方にも丁寧に教えます。

・

・

・

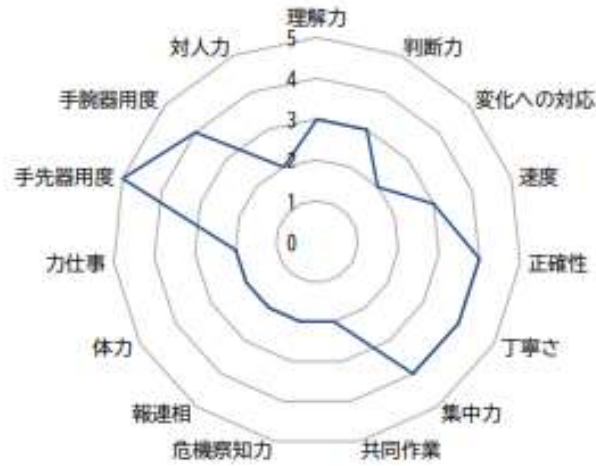
◆体験の基本情報

項目	レベル		内容詳細
体験時間	調整可	固定	基本：10時00分～16時00分
休憩時間	固定	交替制	基本：12時00分～13時00分
昼休憩	自由度高	自由度低	
休憩室	あり	なし	
インセンティブ	あり	なし	
食事の提供	あり	なし	
交通費の支給	あり	なし	
交通手段	利便性高	利便性低	
指導担当者	固定	複数	
体験内容の調整	調整可	固定	
制服・作業服の貸与	あり	なし	
持参する物	あり	なし	
体験のみの受入	可	不可	

◆就労支援の取組実績

項目	状況		内容詳細
体験の職場見学	あり	なし	
体験の実施	あり	なし	
その他	あり	なし	
その他	あり	なし	

【体験実習で確認できること・作業の特徴】



◆受入れ体制や職場環境 ※参加者と受入れ企業・そこでの仕事の相性を確認できる項目

<受入体制>

- ① 各作業を担当しているスタッフが作業の進め方やコツを教えます。
- ② 日陰の作業場で集まって、分担して作業をします。

<作業・業務の特性>

- ① 座ったままでできる作業です。
- ② はさみで切る、重さをはかる、洗う、束ねる、袋詰めするなど、手先を使います。
- ③ 作業を理解するためのコミュニケーションは必要ですが、対人業務はありません。

◆体験実習を通して確認できる項目

体験で確認できること：

- ①集中力
- ②丁寧さ
- ③手先器用度
- ④正確性

相性：

- ・コツコツと作業をするのが好きな人に向いていると思います。

次のステップ：

- ・まずは1つの作業だけを行い、慣れてきたら複数の作業に移る事も可能です。
- ・見学・体験から始めることも、雇用でスタートすることもできます。

VI. 就労支援のための地域プラットフォームのデザイン

就労支援に協力する事業所のみならず、人材採用ニーズのある事業所でこのような体験プログラムシートを開発し、地域のしかるべき機関に集積し、様々な就労支援機関で活用できるようにする地域プラットフォームの構想を当事業参加地域に紹介してきました。「しごと情報」を集積する場所は、自治体等の無料職業紹介のデータベースであったり、グループ就農コーディネイト機関などが考えられます。

すでに無料職業紹介の許可／届け出手続きが完了しているところでは、求人登録がある企業や農家等を訪問し、体験プログラムシートの作成とその地域共有資源化の試みが始まりました。一方で、そのような地域プラットフォームのイメージを描きながらも、具体化にはまだ距離がある地域もありました。

- 企業等で「しごと情報」を切り出してもらうための訪問、対話を誰がするのか？特定の部署、機関なのか？複数の部署の相談員が担うのか？
- プログラムシートづくりのスキル研修がさらに必要ではないか？
- どの部署、機関に「しごと情報」を集積するのか？
- それをどのようにして複数の部署からアクセス可能な形にするのか？
- これらを協議し、合意形成を図る場をどのようにして作るのか？

ワークショップコーディネイトチームとユニバーサル志縁センターとの意見交換の中で、具体化に向けた検討課題がいくつか挙がったものの、いくつもの乗り越えなければならない課題があるようでした。

図8 「しごと情報」の集積と相談現場での活用イメージ



VII. 重層的支援体制整備と就労支援のつながり

ここまで述べてきたように、しごと・就労支援を切り口にした地域づくりは、一人ひとりの相談者にあった就労支援のステップを用意し、地域の「働く場」への参加を支援する取り組みといえます。

個別ケースのマッチングや事業所単体の取り組みを越えて、地域の仕組みにしていける場合、重層的支援体制づくりや、参加支援の事業と重ね合わせて検討していくことができそうです。

しごと・就労支援を切り口にした地域づくりにおけるワーカーの役割を重層的支援体制整備の参加支援事業にあてはめてみると、下の図の右側(赤線の囲み)に示される地域づくり支援と親和性が高いです。

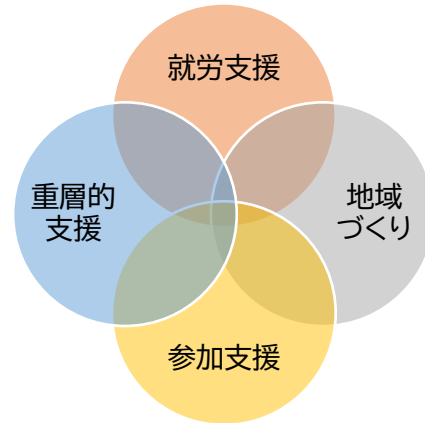
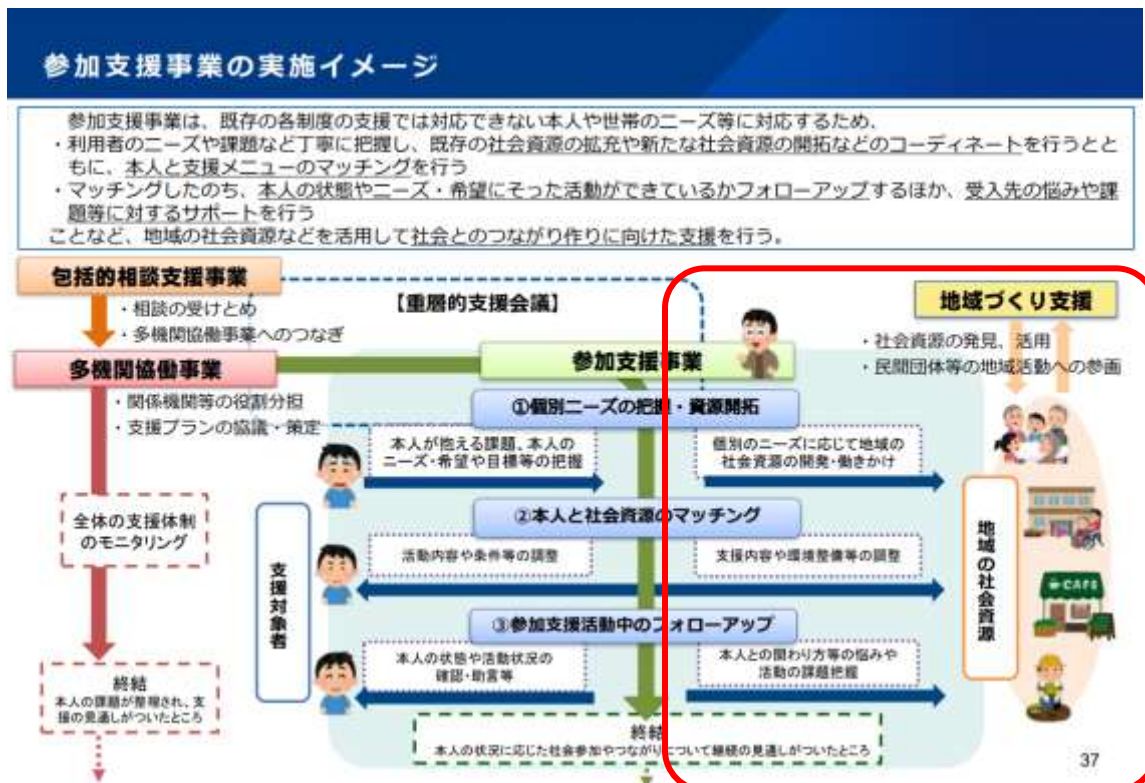


図9 重層・参加支援・地域づくり・就労支援の重なり

図10 重層的支援体制整備における参加支援事業の実施イメージ



出所)厚労省資料「地域共生社会」を目指す包括的支援体制の整備について～重層的支援体制整備事業の活用～」

VIII. 成果と課題

(1) 多様な地域連携の素地形成

同じ地域で就労支援に携わっているが、それぞれがどのようなプログラムをもって支援をしているのか、ワークショップに参加するまで相互に知らなかったことが判明した地域がありました。この点で、今回、実施した多機関参加型ワークショップは多様な地域連携の素地を作る契機となったといえるでしょう。

また、多機関参加型 WS で克服すべき課題、強化すべき課題を見つけ、一歩先へ進めるための取り組みを進めることができました。

(2) マッチングを改善する「しごと情報」を軸にした就労支援の仕組みづくりの推進

協力企業の開拓に苦戦しているなか、企業等の協力を得て、「しごと情報」の体験プログラムシート化をまず誰がやってみるのか、が一つのハードルでした。いずれの地域でも、まずは当事業のコーディネートをしている部署の方が既存の協力企業を訪問し、モデル的にやってみるところから始めました。モデル的に作成したシートを用いて就労支援のケースワークの研修や、一次相談機関でのニーズ把握の研修につなげることができ、「しごと情報」を軸にした体験プログラム形成と活用をすることで企業とのつながり、支援機関の連携もしやすくなることを共有できました。また、「しごと情報」を軸にした体験プログラムを相談の場面で紹介できれば、ミスマッチを減らすことができ、その開発と活用が就労支援の機能強化のカギとなる可能性を確認することができました。

一方、このプロセスにおける中間支援団体の課題も見えてきました。企業等の「しごと情報」を洗い出し、切り出すには企業との関係が重要であり、中間支援団体はそのサポート手段を持っている必要があります。とくに企業訪問に同行し、対話を通じたプログラムづくりのサポートをする経験知をあげる必要があります。

(3) 高齢化、人口減少が著しい農村地域での就労支援

高齢化、人口減少が著しい農村地域での就労支援は、農業等の地域産業の維持、振興とも深く関係するもので、農家や農事法人与自然体や就労支援事業所が協力したグループ就農の仕組みづくりについて意見交換する機会をつくることができました。今後、各地域で具体的な動きになっていくことが期待されます。

(4) 各地域のコーディネートチームの立ち位置を見極めながらのコンサルティング

中間支援団体として、各地域のコーディネートチーム、キーパーソンの立場を見極め、支

援、コンサルティングの方法を見極めていきました。また、当事業の推進には、コーディネーターチームと企業・農家等との協力関係が重要であると考え、企業・農家等の訪問に同行支援を行いました。

(5) 求められる中間支援

就労支援の領域のなかでも対象者ごとに設置された制度、事業ごとに部署や機関が縦割りで動いているなか、課題があっても、その克服のための新たな取り組みのきっかけを内発的に作るのはなかなか難しいようです。そこで、地域外の機関が中間支援の立場から、多機関参加型ワークショップのコンテンツとコンサルティングといったプログラム提供があると、縦割りを超えるための仕切り直しの機会を作りやすいことがわかりました。

また、各地域内でもちえる経験知は限られているため、中間支援団体による伴走的コンサルティングは有意義であるように思われました。

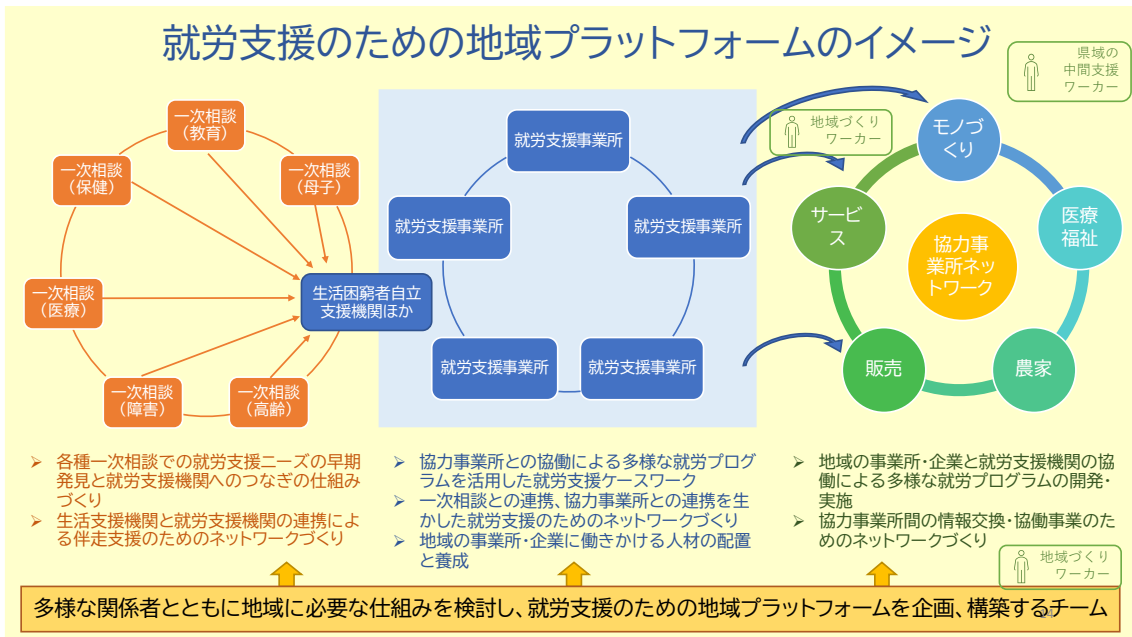
就労支援の機能強化を図るための地域づくりには、それを推進するチーム、そして、求められる仕組み(就労支援のための地域プラットフォーム)をデザインし、運営する組織体制の整備も不可欠の要素です。それについて地域内で合意形成を図るための協議の場はやはり、各地域のしかるべき立場の方々による会議体ですので、そのプロセスにもっていくための中間支援の在り方を、各地域の実情に合わせて検討する必要があると考えられます。

また、当事業にて大分県社会福祉協議会で県域の中間支援ワーカーの育成を行い、次年度以降は県社協の独自事業として、この取り組みを進めていくことになりました。これにより、大分県内での就労支援の機能強化のための地域づくりの取り組みがさらに進展することが期待されます。

(6) 3つの地域づくりワーカー像

就労支援の機能強化を図る仕組み、地域プラットフォームのデザインと構築に必要な地域づくりワーカーとして、最終的に3つワーカー像にたどりつきました。

- ① 多様な関係者ととも地域に必要な仕組みを検討し、就労支援のための地域プラットフォームを企画、構築するチーム作りを担うワーカー
- ② 企業・農家等にアプローチし、「しごと情報」を地域で共有できる形にするワーカー
- ③ 各地域のこうした取り組みをサポートする県域の中間支援ワーカー



(7) 当事業の成果の社会への還元

地域の企業・農家等での「しごと情報」を無料職業紹介などに集積し、地域の多様な支援機関からアクセスできるような仕組みを作り始めた地域があります。また、ノウハウを特設 HP「就労支援×地域づくりに役立つ情報サイト」に掲載し、多くの方に発信できるようになりました。厚労省が推進するマッチング支援担当者設置のモデル事業においても、担当者はこの事業で制作した特設サイトを手引きとして活用できると考えます。

仕事・就労を切り口にした地域づくりに 必要な情報や課題整理のためのセミナー (地域づくり担当者セミナー)

昨年度、公益社団法人ユニバーサル志縁センターでは「多様な地域連携による就労支援」をテーマに、さまざまな相談現場で活躍する関係者の皆さんによるワークショップを全国6地域で開催し、就労支援の現状認識を共有するとともに、今後の方向づけを行いました。高校世代や氷河期世代等の若者、セカンドキャリアで悩む高齢者、就労や就労継続をめざす障害者やひとり親、不安定な非正規雇用者や個人事業主など、さまざまな対象ごとに普段はバラバラに相談対応していますが、ワークショップを機に、改めて相談をどう受け止め、効果的な支援を工夫すればよいか、建設的な意見交換と状況の共有を進めました。その成果は「多様な地域連携による相談支援のロジックモデル（作戦体系図）」にまとめ、参加団体の皆さんには好評をいただきました。

この度、そのノウハウ等について、「仕事・就労支援を切り口にした地域づくりを応援する WAM事業」として、全国の皆さんにお伝えすることになりました。就労支援の仕組みづくり・地域づくりのノウハウを学ぶことができるセミナーです。お申込みのうえ、ぜひご参加ください。

- 6月29日から11月2日まで全8回
- 水曜日 13:30～16:00
- メイン講師 西岡正次氏 (A'ワーク創造館 副館長・就労支援室長)
- 講義と演習、グループワークで構成

参加費無料

オンライン

プログラム (前半)

	日程	内容	ゲスト講師
1	6月29日 (水)	イントロダクション <ul style="list-style-type: none"> ・ 重層的支援、地域づくりの取組みと就労支援の課題 ・ 「重層的支援整備事業」「生活困窮者等支援のための地域づくり事業」についての最新情報 	唐木啓介氏 厚生労働省社会・援護局 地域福祉課生活困窮自立 支援室長
2	7月13日 (水)	地域を深く知る① <ul style="list-style-type: none"> ・ 改めて、支援対象者像や支援ニーズを理解する 事例：ワークショップによる質的データの見える化 ・ 調査・統計データから地域を知る～地域づくりのためのデータ集をつくる～ 演習：受講者自身の地域データ集を作る（完成版を第4回で発表） 	佐藤もも子氏 東御市社会福祉協議会 相 談支援係長・主任相談支 援員 前田和美氏 有限会社トトハウス 取締 役
3	7月27日 (水)	変化・進化する就労支援①へ ～就労支援の到達点を考える～ <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した個別支援と多機関連携 ～就労相談、支援内容ほか～ 事例：ユニバーサル就労ネットワークちばの取組みから ・ 事例検討：グループワーク 	鈴木由美氏 NPO法人ユニバーサル就 労ネットワークちば 事務 局長
4	9月7日 (水)	地域を深く知る② <ul style="list-style-type: none"> ・ 定量データから地域づくりの課題を探る ～受講者作成のデータ集から地域づくりの特徴や課題を読み取る～ ・ 公的な計画や方針等を読み取る ・ 就労支援に関与する地域の施策・事業プレイヤーを理解する 	前田和美氏 有限会社トトハウス 取締 役

プログラム（後半）

	日程	内容	ゲスト講師
5	9月21日 (水)	重層的支援と仕事・就労支援の課題① <ul style="list-style-type: none"> 仕事・就労支援を見通すロジックモデルと地域づくりの作戦体系図 事例：ワークショップによるロジックモデル作成 グループワーク、ゲスト講師との意見交換 ※第6回(2)の演習課題の説明＝地域で活用できる訓練を探す（個人ワーク） 	西岡正次氏 A'ワーク創造館 副館長・ 就労支援室長
6	10月5日 (水)	変化・進化する就労支援② <ul style="list-style-type: none"> 「働く場を利用した就労支援」のタイプと進め方（就労訓練事業所等との関係づくり） 公共調達と認定就労訓練を組み合わせる（事例を交えて） 無料職業紹介所が可能にする 企業との関係づくり（事例を交えて） 埼玉における企業支援の取組み～障害者雇用分野から～ 演習：地域で利用できる訓練の現状と活用の進め方（個人ワークをもとに） 	高木哲次氏 企業組合伊丹市雇用福祉 事業団 代表理事 常松順子 A'ワーク創造館、豊中市 無料職業紹介所、あした のキャリア相談担当、企 業コーディネーター 岡濱君枝氏 NPO法人サンライズ 代表 理事
7	10月19日 (水)	変化・進化する就労支援③ <ul style="list-style-type: none"> 「訓練を活用した就労支援」の可能性と課題 ～仕事や働き方の変化に対応したスキル習得やキャリア 形成の進め方～ デジタル化と職業訓練 ～CADオペレーター養成訓練等を中心に～ 就労支援と連携した訓練や事業所向け支援の推進 ～労働施策との連携～ 	三辻茂樹氏 (株) コステック 代表 取締役 CAD・ICT・WEB教育会社 濱政宏司氏 豊中市 市民協働部参事・ くらし支援課長
8	11月2日 (水)	重層的支援と仕事・就労支援の課題② <ul style="list-style-type: none"> 仕事・就労支援を切り口にした地域づくりに向けて ～地域特性を活かした仕組みや組織づくりをさぐる～ 地域づくり作成体系図の効果的な実施とプログラム評価 地域づくりのための仕組みや組織づくりを考える セミナー修了式 	新藤健太氏 日本社会事業大学社会福 祉学部講師 矢野茂生氏 NPO法人おおい子ども 支援ネット理事長

◆地域づくり担当者セミナーへの参加（先着名様）（個人での申込み可）

申し込み期間：随時 セミナー初回の締め切りは6月24日（金）正午

お申し込みフォーム：<https://forms.gle/.....>

- お申込みいただいたメールアドレスに参加方法（Zoom情報・資料）を開講日までにご案内します
- お申込みいただいたメールアドレスに後日、動画配信もいたします
- 地域づくり応援デスクの利用（情報受信）にも同時にお申込みいただけます

QR
コード

◆地域づくり応援プログラムの利用（団体による申込み）も受付中

お申し込み・問い合わせフォーム：<https://forms.gle/.....>

申し込み期間：6月1日（水）～6月30日（木）

- 定員（5地域）に達しましたら受付を終了いたします。
- 参加したいが決定にもう少し時間がかかるといった場合は、期日までにメールにて一度ご連絡ください。
- お申込みいただいたのちに、地元の関係団体や企業に参加を呼びかけていただいても構いません。

QR
コード

【お問い合わせ・相談窓口】公益社団法人 ユニバーサル志縁センター（東京都港区新橋 4-24-10-502）

Email: info

担当: 小田川・池本